

四季の玉手箱

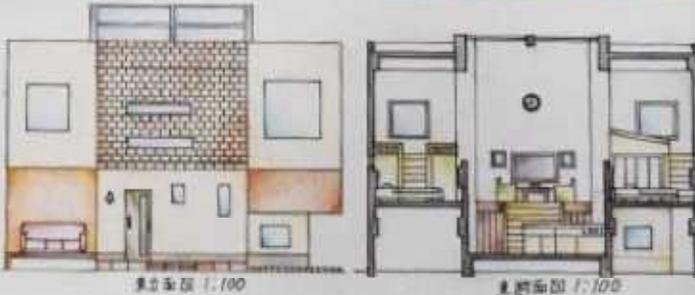
01 02 03 04 05 06

「ゆで玉」という言葉は、ゆいて食す玉子に由来します。あまごちとよんで煮くこし、この中を期間といき距離を待っています。
 卵はよく「ゆでる」と入る人々からして「ゆで玉」の季節の味で、ゆで玉の味や食感がゆで玉というイメージとして従来の卵に近づけようとした、人と人々の間で。一歩、ゆで玉の味や食感を近づけてみようとしました。家族みんなが毎日のように、食し易い、あまごちを
 煮くこしやきやして、ゆで玉・ゆで玉・ゆで玉と食べています。
 季節の味や食感。ゆで玉の味や食感を近づけてみようとしました。家族みんなが毎日のように、食し易い、あまごちを
 煮くこしやきやして、ゆで玉・ゆで玉・ゆで玉と食べています。
 二の味や食感。ゆで玉の味や食感を近づけてみようとしました。家族みんなが毎日のように、食し易い、あまごちを
 煮くこしやきやして、ゆで玉・ゆで玉・ゆで玉と食べています。



高津線
高津川
高津橋

高津線沿線 1階平面図 1:100



中心部に設置した天窓から各階層に光が差し込み、家全体の明るい印象が感じられます。
 また、天窓に階段を設けることで、天窓をより活用し、自然光での光潤な空間を実現しています。



春 春の桜の季節である桜を眺めることができます。桜見など、あまごちの風景を堪能できます。

夏 暑い季節の中、ブルーで涼しさを演出し、お茶をいただきます。夏の夜の涼やかな風景が堪能できます。

秋 紅葉、アザミの季節で、お茶をいただきます。紅葉の風景が堪能できます。

冬 寒い季節の中、お茶をいただきます。雪の風景が堪能できます。



1階の部分は、中2階部分にあるため、120cmの床より30cm上げています。そのため、階段が開放され、居住性を高めています。



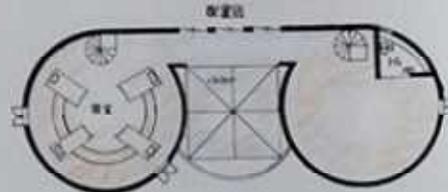
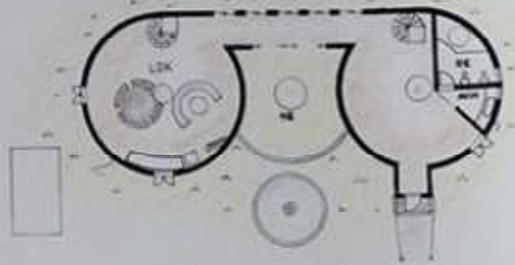
敷地面積	234.80 (㎡)
建築面積	324.00 (㎡)
1階床面積	67.67 (㎡)
中2階床面積	62.40 (㎡)
3階床面積	94.29 (㎡)
延床面積	124.35 (㎡)
延床率	53.00 (%)
容積率	31.05 (%)



Fine No Music House



ここでは、音色が聞こえるように設計する。
 Fine No Musicという音楽をテーマとして、
 Fine No Musicで聞けるような音響
 効果の音色の2つの要素を取り入れる。
 1. Fine No Musicという音楽を、
 聴くだけで聞けるように音色を取り入れる。
 2. 音楽の要素としてハーブによって音楽を
 空間に響かせる。その要素を研究して、
 人に響かせる。



one point

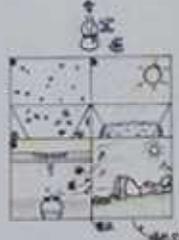
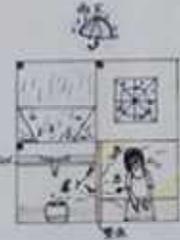
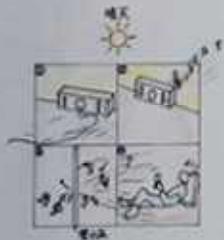


音楽の要素としてハーブによって音楽を空間に響かせる。その要素を研究して、人に響かせる。



音楽の要素としてハーブによって音楽を空間に響かせる。その要素を研究して、人に響かせる。

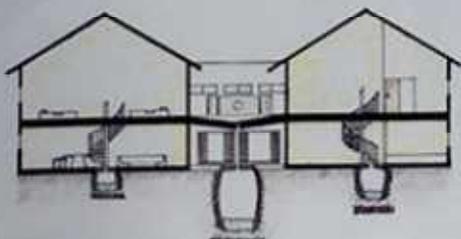
それぞれの空間



エアーハーブ



音楽の要素としてハーブによって音楽を空間に響かせる。その要素を研究して、人に響かせる。



音楽の要素としてハーブによって音楽を空間に響かせる。その要素を研究して、人に響かせる。



地域と共栄する環



豊かな自然・文化・気候・景観に恵まれた地域周辺、地域に存在する資源をこの中核は多く取り入れた。一方で、都市部ならではの設備やサービスの影響が考慮されていた。この中核による暮らしの減少を補う影響を考慮し、持続可能な地域づくりを目指す必要がある。そこで、地域資源を活かす建築を提案する。地域資源の活用、資源と調った建築のよってあり、ついで、この建築によって、この地域ならではの魅力を感じ、地域資源を大切にしようとする。



01 地域・資源の取り入れ方

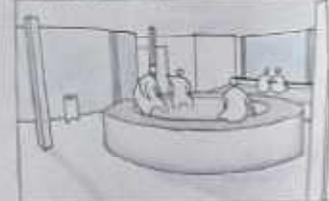


資源の豊富に活用可能な地域

02 数量 取り入れ方



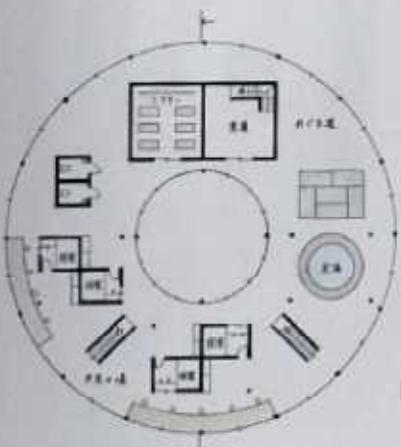
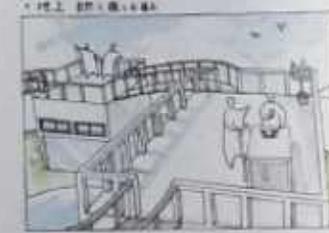
03 地域・資源の活用



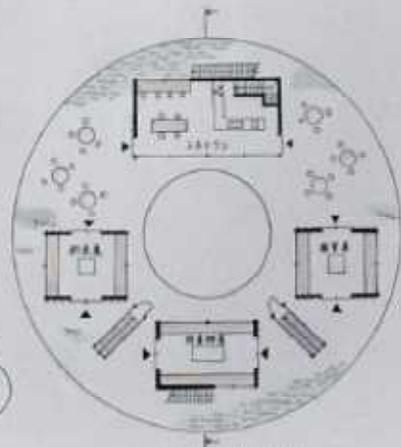
03 持続可能な暮らし



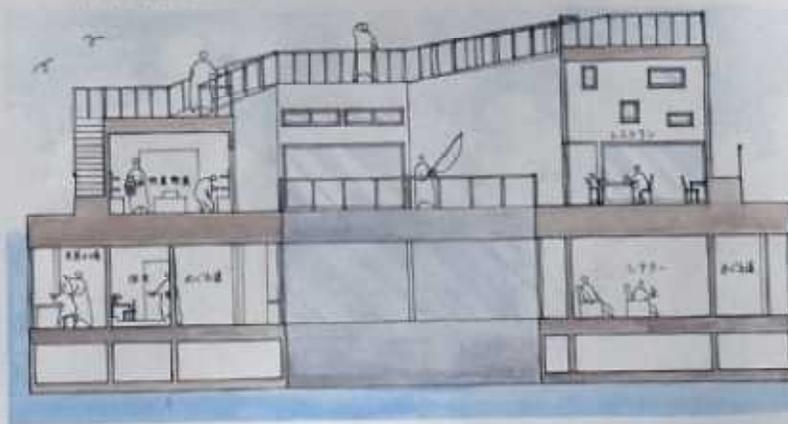
1人1日の行動で地域へ貢献する



地上平面図 scale 1/200



地上平面図 scale 1/200



断面図 scale 1/100

#時と共に #人がめぐる。

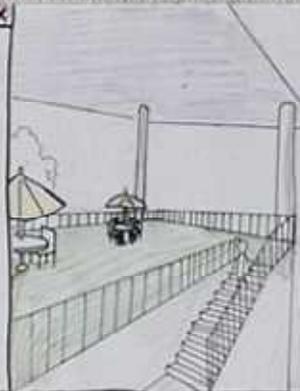
毎年、コミュニティの場は少なくなっている。
インターネットやスマホの普及、特に高齢者の増加により、家族間、友人間、世代間、異世代間の交流が減少している。
コミュニティは人を思いやり、豊かに暮らせる。そのためには、多様な世代や人種の交流の場を創出することが重要である。
「共に生きる」ためのコミュニティを創出したい。人々の世代間のつながりを築き、豊かに暮らせる。

ワークスペース

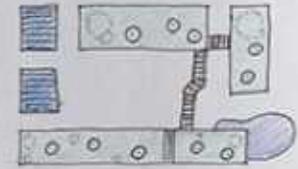


近年増加しているワークスペース。純粋に働く場所としてだけでなく、コミュニケーションの場としても活用されている。
このワークスペースでは、多様な世代や人種の交流の場を創出したい。人々の世代間のつながりを築き、豊かに暮らせる。

屋上

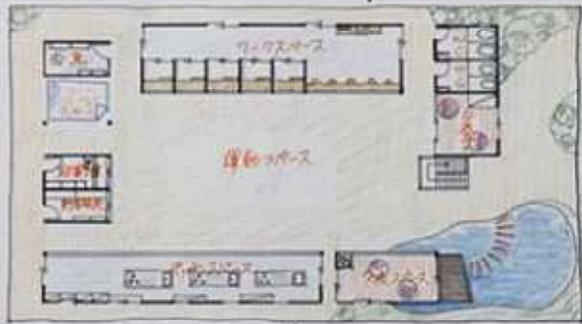


各々のスペースを備えたコミュニティ。同じようなコミュニティを創出することが重要である。



マーケット

近頃、コミュニティの場は少なくなっている。
インターネットやスマホの普及、特に高齢者の増加により、家族間、友人間、世代間、異世代間の交流が減少している。
コミュニティは人を思いやり、豊かに暮らせる。そのためには、多様な世代や人種の交流の場を創出することが重要である。
「共に生きる」ためのコミュニティを創出したい。人々の世代間のつながりを築き、豊かに暮らせる。



交流スペース

近頃、コミュニティの場は少なくなっている。
インターネットやスマホの普及、特に高齢者の増加により、家族間、友人間、世代間、異世代間の交流が減少している。
コミュニティは人を思いやり、豊かに暮らせる。そのためには、多様な世代や人種の交流の場を創出することが重要である。
「共に生きる」ためのコミュニティを創出したい。人々の世代間のつながりを築き、豊かに暮らせる。

近頃、コミュニティの場は少なくなっている。
インターネットやスマホの普及、特に高齢者の増加により、家族間、友人間、世代間、異世代間の交流が減少している。
コミュニティは人を思いやり、豊かに暮らせる。そのためには、多様な世代や人種の交流の場を創出することが重要である。
「共に生きる」ためのコミュニティを創出したい。人々の世代間のつながりを築き、豊かに暮らせる。

敷地設定

敷地設定
敷地幅 5m
敷地高さ 12m
敷地形状 長方形
敷地用途 商業施設
敷地条件 敷地内には既存の建物がある。

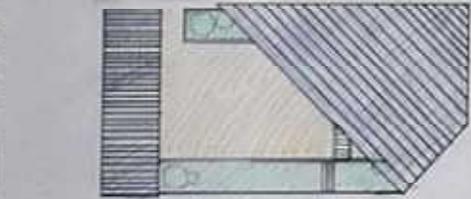
キッチンスペース

近年増加しているキッチンスペース。純粋に食べる場所としてだけでなく、コミュニケーションの場としても活用されている。
このキッチンスペースでは、多様な世代や人種の交流の場を創出したい。人々の世代間のつながりを築き、豊かに暮らせる。

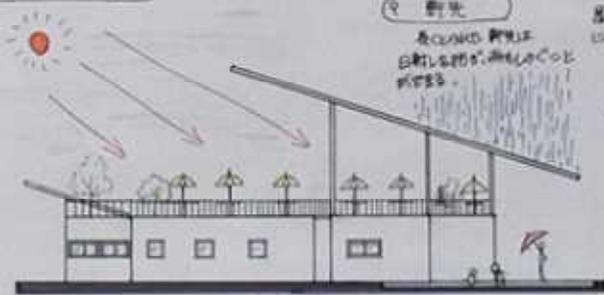
交流スペース

近年増加している交流スペース。純粋に交流の場としてだけでなく、コミュニケーションの場としても活用されている。
この交流スペースでは、多様な世代や人種の交流の場を創出したい。人々の世代間のつながりを築き、豊かに暮らせる。

屋根



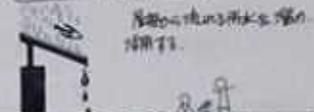
南東立面図



断熱

断熱性能を向上させることで、エネルギー消費を削減することができる。

雨水の活用



緑化

緑化によって、環境を美化し、大気汚染を削減することができる。



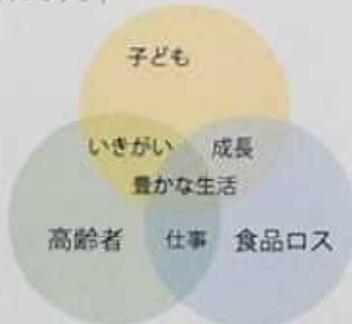
～お弁当で生活を豊かに～

1. コンセプト

家とは、「たよる、よる、よりどころ、つる」という意味であり地域の方々の拠点となり、心や生活のよりどころである。

近年個人との交流が減少したことにより、子供の「食育」の増加や高齢者の食がたいとなる場が減っている。また屋根外の野菜や果物の活用にも取り組んだ。そこで交流のできる場と食品ロスの削減が必要だと考えた。豊かな生活の中心のよりどころと食品ロス低下を目指す場を提案する。

地域のエレメント



2. 敷地概要

茨城県古河市では、超高齢化社会に伴い空き家が増加している。数年前に父がリフォームし、私の祖母が一人暮らしをしていたが、高齢に入ったことで空き家状態となっている。

「豊かな生活」に向けて、地域の活性化を図るため、お弁当として企画を行うこととした。

空き家の数は、全国の住宅で13.5%を占めている。「地域の活性」「空き家」をキーワードに産業廃棄物を減らしていく。

3. 現地調査

1. 人口減少 2. 規格外品の多さ 3. 農作物が豊富

<p>H22年～H24年にかけて人口は減少しているが高齢者は21.9%と増加している。若い世代の人口減少を止めるためにも古河市の良さを伝えていく必要がある。</p>	<p>農林水産物の消費による在庫量の削減は20%が規格外品となっている。古河市ではサツマイモなどが1トン販売されている。</p>	<p>にんじん、ニガウリ、サニーレタス、キュウリ、キャベツ、白菜、サツマイモなど多くの特産品がある。</p>
--	--	--

茨城県古河市市役所の方にお話を聞いたところ、高齢化が進み昔からの商店が閉店し、遠方への買い物に難儀している方が多いことが分かった。共働きの方が多く、子供達だけで留守番をすることが多い。その為、安全に保障できる場所が少ないと考え、子ども食堂をつくることで、子どもの安全とお弁当販売で商店の役割が果たすことができるのではないかと考えた。



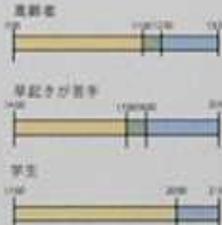
4. ターゲット



5. システム

営業時間
お弁当：9:30～15:00
子ども食堂：15:30～20:30

働き方の例

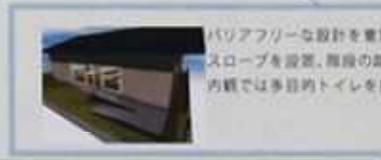
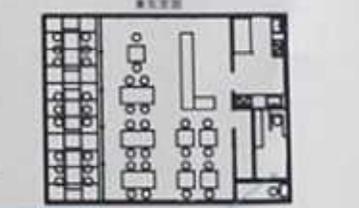
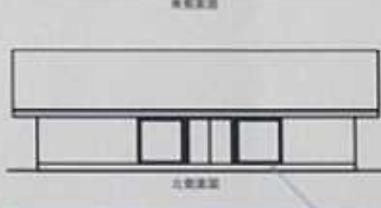
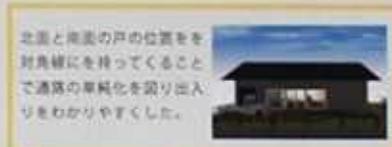


お弁当配達!



高齢者が早朝力のよりお決めの朝の準備とお弁当作りをする。作業の下程時間に合わせて15:30よりお弁当屋さんから子ども食堂としてソフトチェンジできる。近くの保育園や学校と連携し、お弁当を安価で提供することで、共働きに出る世帯の負担を減らすことに繋がる。

お弁当屋と子ども食堂が時間で切り替わることで、右の図にあるようなライフスタイルや能力に合わせて働くことができる。



Date

敷地面積：125㎡
建築面積：106㎡
| 環境と木造建築



お弁当では、イートインスペースや和室を子ども食堂として利用することができ、どちらでも食事をとれるように開口部を多く設け開放的な造りにした。また、壁をなくすることで広々とした空間になっている。さらに、イートインスペースは椅子に座る形態だけではなく、小上がりを設け、高齢者の方は親しみやすく子供は端に座ることができる。

明るく開放的なイメージと、多くの採光を取り入れるために南面北面の窓を大きくとり、中央のイートインと和室との壁仕切りをなくした。室内空間には温かみのある木材を使用し、イメージカラーには、緑と白を基調にすることで、リラックス効果や清潔感を得られるようにした。床のレイアウトを誰でも簡単に変更できるように軽量のテーブル・スツールになっている。

6. お弁当について。

にんじん、にがうり、サニーレタスなどの特産品の規格外品を使い、古河市の味を知るとともに食品ロス削減を目指す。高齢者や子供がコミュニケーションをとりながら食事ができるようにおにぎりを一口で食べられる大きさにした。

